



伝統と現代が共存・融合する 東京の独自性と多様性を追求し、 世界発信

- 伝統と現代が共存・融合する東京の芸術文化の魅力を、より一層世界に浸透させていく。
- 東京の独自性の源泉ともいえる伝統文化を次世代に引き継ぎ、保存、継承、発展させていく。
- 変貌し続ける現代社会における伝統の価値を見直し、その潜在力に新たな光を当てる。



一流の芸術家の指導による、子供たちの伝統芸能体験の発表会（平成25年度）
（東京発・伝統WA感動「キッズ伝統芸能体験」）

東京が持つ芸術文化の力

- 東京の芸術文化は、現代と伝統が共存・融合する独自性・多様性に支えられており、過去・現在・未来を示す文化が、互いに影響し合い、その価値を高めている。
- 能や歌舞伎といった伝統芸能をはじめ、クラシック音楽、現代演劇・舞踊、ポップカルチャー^{*1}など、多種多様な芸術を誰もが楽しみ、受け入れる土壌がある。
- 現代的なファッション、デザイン、建築などの分野においては、伝統の中で培われ、生み出されてきた新たな潮流の発信源として、世界に新鮮な影響を与え続けている。

現在の取組例

- 都では、日本人が大切にしてきた伝統芸能を知り、その心を子供たちに継承することを目的として、能楽、日本舞踊、三曲、長唄の一流実演家から子供たちが直接指導を受け、その成果を舞台発表する体験プログラムを展開している。
- また、歌舞伎の世界では、映画や漫画を原作とした作品や現代的な演出効果を活用した公演がなされているほか、人形浄瑠璃等では、本格的な組立舞台によって日本各地を巡回公演するなど、新たな観客層の獲得に向けた様々な取組が展開されている。
- さらに、日本の伝統を様々な形で捉え、現代的な表現技法による作品が生み出されており、現代舞踊において盆踊りを活用した公演が開催されるなど、伝統文化や郷土芸能に着目する創作が都内各地で行われている。



「音の息吹き」(平成25年度)
(東京発・伝統WA感動「伝統芸能公演」)

施策の方向性

東京の多様で奥の深い 芸術文化を顕現した、 大規模フェスティバル(芸術祭)を 展開し、世界発信する

- 伝統芸能、演劇、舞踊、音楽、現代美術などあらゆる分野の芸術を集結させた都市型総合芸術祭を構築する。まず、伝統芸能も含めた舞台芸術において、芸術家など海外の人材も活用し、いくつかの文化施設を核とした展開を図るとともに、多数の小劇場や公共空間を組み合わせる形で東京全体としての演出を行い、芸術分野の壁を越えたフェスティバルを構築する。

東京の強みである技術力や デザインと芸術文化を協調させ、 新たな作品創造や 芸術表現を生み出す

- 新たな領域を開拓していくため、時代を牽引する革新的な技術者や伝統工芸職人と芸術家との協働を推進する。

現代における伝統の意義を理解し、 次の時代に新たな文化を 創出するため、次代を担う 子供たちに伝統文化の価値を 正しく伝え継承する

- 能楽、邦楽、落語、茶道等、幅広く学校と連携した都内全域を対象とする小中学生等を対象とした伝統文化体験プログラムを展開する。

※1 一般大衆が広く愛好する文化のこと。一般的に、マンガ、アニメ、ゲーム、テレビ、映画、ポピュラー音楽などが含まれる。
※2 東京を世界一の都市とするため、観光面における「東京ブランド」の確立に向け、都が策定した広報戦略

東京の芸術文化の奥底に 色濃く流れている、 長い歴史の中で培ってきた 日本の伝統文化の真髄を外国人に 伝える体験・鑑賞などの取組の強化

- 一流の実演家による能楽、舞踊、茶道、華道、民俗芸能の神楽、木遣りなど、来日時に短時間で理解するための体験・鑑賞プログラムを伝統発信拠点を中心に展開する。

海外向けの都市広報を強化し、 東京の芸術文化の魅力を 世界発信

- 国際的な放送事業者との連携や海外メディアとの関係構築による情報発信を展開するとともに、都の「ブランディング戦略」※2に基づく取組の重要な要素としても国内外に広く発信する。

能楽(狂言)の発表会(平成25年度)
(東京発・伝統WA感動「キッズ伝統芸能体験」)



都市型総合芸術フェスティバル 「東京芸術祭(仮称)」開催までのステップ

目指す方向性

伝統芸能、舞台芸術、音楽、現代アートなど
東京の多様で奥の深い芸術文化を顕現した
都市型総合芸術祭を構築する。

現状

各事業が個別に展開

フェスティバル/トーキョー(F/T)

国内外の演出家による現代演劇や舞踊のほか、若手アーティストの共同創作作品などを上演

アジア舞台芸術祭

アジア各都市の次代を担う舞台芸術関係者が、舞台作品の国際共同制作を通して、技術習得と人材交流を図る

東京発・伝統WA感動

能楽、邦楽、日本舞踊、寄席芸、民俗芸能等、人間国宝などの一流の実演家による本格的な公演を開催

東京芸術劇場の自主事業

東京を代表する音楽・舞台芸術の拠点として、芸術監督の下で、国内外の一流芸術家による創造的な舞台作品を制作・上演

第Ⅰ段階

舞台芸術の祭典として発展

現在行われている現代演劇を中心とした舞台芸術イベントに、伝統芸能を加え、「東京舞台芸術祭(仮称)」として再編し、芸術文化拠点である池袋において展開。舞台芸術の祭典としてのブランド化を推進する。

第Ⅱ段階

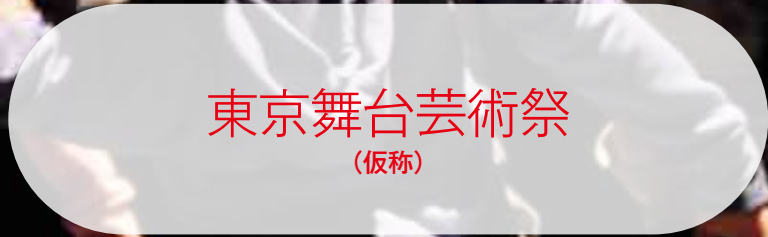
東京全体での 都市型総合芸術祭として発展

「東京舞台芸術祭(仮称)」から更に発展させ、東京全体で展開する「東京芸術祭(仮称)」として、共同で広報展開し、世界発信する。

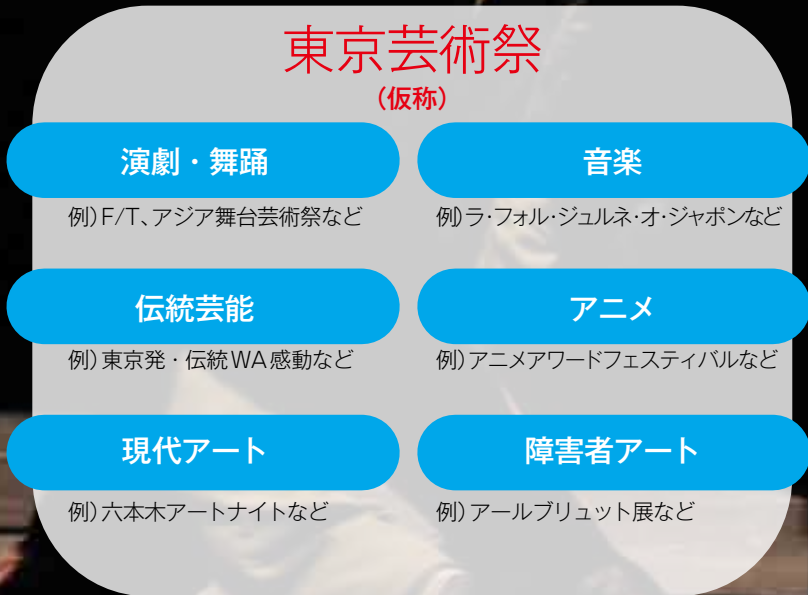
現状



第Ⅰ段階



第Ⅱ段階



外国人や子供に向けた本物の伝統芸能等の体験による伝統文化の継承と発展

目的

- 現代における伝統の意義を理解し、東京の芸術文化の未来を切り開く豊かな感性と創造性を育むため、次代を担う子供たちに伝統文化の価値を伝え、継承する。
- 東京の芸術文化の奥底に色濃く流れている、長い歴史の中で培ってきた伝統文化の真髄を、外国人観光客や在住外国人等に伝え、東京の芸術文化の独自性・多様性を体感させる。

事業

外国人対象

子供対象

短時間体験プログラム

本格的な体験プログラム

学校における体験プログラム

対象

外国人観光客、在住外国人、留学生など

小、中、高校及び特別支援学校の生徒

会場

江戸東京博物館をはじめとする都立文化施設、都立公園、庭園など

能楽堂、公立ホールなど

学校の体育館、音楽室、多目的教室など

体験・鑑賞する分野

能楽、邦楽、舞踊、演芸（落語など）、華道、茶道、民俗芸能（木遣り、神楽など）、日本画、浮世絵、江戸文字など



仕舞のお稽古(平成24年度)(東京発・伝統WA感動「キッズ伝統芸能体験」)



能楽囃子(小鼓)のお稽古(平成25年度)(東京発・伝統WA感動「キッズ伝統芸能体験」)

事業の実施に向けて

- アーツカウンシル東京を中心に、実施会場となる文化施設や学校、プログラムを公演する芸術家や芸術団体等と連携し、効果的な事業運営を行う。
- 実技や指導を担当する実演家は、各分野の一流実演家はもとより、才能ある若手実演家等を積極的に活用し、本事業への参加を通じた「実演家の人材育成」も推進する。
- 外国人観光客のニーズや観光ルートなどを的確に把握し、体験できる分野や実施場所等を精査する。
- 各学校で行う体験授業の実績を基に、事業実施ノウハウを標準化するとともに、学校の実情に応じた柔軟なプログラム構成ができるような仕組みを構築する。



狂言のお稽古(平成21年度)
(東京発・伝統WA感動「キッズ伝統芸能体験」)



浜離宮恩賜庭園 イングリッシュ野点
(東京発・伝統WA感動「東京大茶会2013」)



Message from Yoshiharu Fukuhara

株式会社資生堂名誉会長
東京都写真美術館館長
東京芸術文化評議会会長

ふく はら よし はる
福原義春 氏



各界を代表する皆さんによる議論から、ここに東京文化ビジョン実現のための基礎部分が出そろった。しかし、私たちの最終目的はビジョン策定ではない。

2020年に向け、世界に向けて日本文化を見せることが目的化して単なる日本文化の「売り尽くし」、「棚ざらえ」をしてはならない。東京オリンピックに向けた文化プロジェクトの目的は、世界の人々がこの機会に心をひとつにし、国際的理解や平和を考えることだ。

オリンピックの開催を絶好の機会と捉え、日本文化のさまざまな要素を見てもらうだけでなく、世界中の人々を巻き込んで、日本文化を基にした新しい運動の担い手になってもらうことが重要なのである。